

災害ボランティアの安全衛生対策マニュアル

VER . 3

作成：日本予防医学リスクマネジメント学会評議員
洙田靖夫（医師・労働衛生コンサルタント）

このマニュアルの履歴

VER . 1（水害編）平成16年（2004年）7月21日作成

VER . 2（水害編）平成16年（2004年）10月22日作成

VER . 3 平成16年（2004年）11月1日作成

本年度の地震や風水害等各種災害で亡くなられた方のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

【ご使用にあたっての注意点】（必ずお読みください）

このマニュアルは、地震や風水害の復旧復興作業に従事するボランティアが作業を通じて死亡したり、病気や怪我をしたりすることを防ぐために書かれたものです。使用に際しては、実情に合うように変更し、自己責任でご活用ください。なお、日本予防医学リスクマネジメント学会は、本マニュアルに関して何らの責任も負わないことといたします。

【はじめに】（お急ぎの方は飛ばしてください）

今年は、災害の多い年であった。風水害用のボランティア安全衛生対策マニュアルを作成してきたが、新潟県中越地震が起こったのに合わせて、震災用にも使用できるマニュアルを上梓した。

本年10月に日本各地を襲った台風23号を始めとして、今年は風水害の多発し、これら風水害による死者行方不明者の数は、合計で200名を超えている。その後、新潟県中越地震も発生し、30名以上の死者を出している。両者を合わせた被災者数は、確定されていないものの数十万世帯という規模であることは間違いないだろう。

それぞれの被災地は、被災程度の多寡はあるものの、疲弊しており、地元だけで復旧復興作業が円滑に行われる所は少ないであろう。全国各地で復旧復興

作業は行われ、多数のボランティアが長期間作業を行うことは避けられない見通しである。

風水害の後片付けに従事するボランティアは、11月に入れば、そろそろ撤退となるであろうが、新潟県中越地震は11月1日現在、約6万人の避難生活者がいるという現状からして、しばらくはボランティア活動が続くものとみならず必要があるだろう。

また、被災者の生活支援を行うボランティア活動ともなると、風水害にせよ、震災にせよ、相当長期間のボランティア活動を想定しなければならないだろう。

新潟県中越地震では、すでにボランティアの募集および活動が始まっている。ボランティア数を正確に予測するのは困難であるが、7月豪雨の際のボランティア数である十数万人を軽く上回るであろうことには、異論はあるまい。

今回の水害は、経済の中心で人口稠密地帯である首都圏、関西圏および中京圏の被害は比較的少なかったため、国全体として致命的な打撃は受けていない。ゆえに、長期的には復興は十分可能であるが、この視点にとどまってしまうのではなく、国家として、また一人ひとりの国民（市民）として、被災者の立場に立った「生活再建へ向けての支援」を行う必要があるだろう。

この意見に賛成もしくは共感していただける方々は少なくない数と思われ、この中からボランティアが生まれ、活動に結びつくであろう。今回は、数十万人規模のボランティアが動く予想して間違いのないと思う。

平成16年版防災白書によると、ロシアタンカー「ナホトカ号」海難・油流出災害（1997年1月）では、ボランティア延べ人数が27万4,607人であった。このうち、5名が死亡している。いいかえると、ボランティア約5万5千人に1人の割合で死亡していることになる。

ナホトカ号油流出災害以後は、2000年9月の東海豪雨災害のボランティア延べ人数が1万9,598人を数えたのが最高記録であり、ボランティアが死亡したという報告はない。理由として、各災害において、ナホトカ号油流出災害ほど気象条件が劣悪ではなかったことと、ボランティア延べ人数が5万人を大幅に下回っていたこと、ボランティアの安全衛生対策を行った災害現場（有珠山噴火災害・東海豪雨・芸予地震）があったことなどがあげられる。

ボランティア関係者においては、常識的なことであるが、ボランティアに対する法的な保護は緒に付いたばかりである。労働者に対しては、労働基準法・労働安全衛生法などの労働法という法体系が整備されており、安全衛生対策を各事業者が行うことは当然の義務とされ、公的な支援体制も整備されている。しかしながら、ボランティアは金銭的な報酬をもらわないことが通例なので、労働基準法に定める労働者の定義から外れてしまう。ゆえに、労働法の恩恵にあずかることはできない。その一方で、ボランティア関係法の整備はおそまつ

である。

かかる現状を打破するには、ボランティア自身が安全衛生に関する知識を習得し、各種のリスクを回避（予防）し、被害を被ればこれを補償する手段を身に付けなければならない。この過程で、公的な支援のあり方も浮き彫りになるだろう。

今回の水害においても、大勢のボランティアを支える仕組みの1つである安全衛生対策を充実し、ボランティアの死亡がゼロで終わることを願ってやまない。

【お願い】

このマニュアルは、主として法の保護の対象外にあるボランティアの衛生管理を扱いますが、公務員や民間企業の従業員にとっても、ある程度までは参考になるように書かれております。

ご意見等がございましたら、下記のアドレスまでお送りください。

nameda@mvp.biglobe.ne.jp

目 次

1 . 前日までにやること	5
1 - 1 . 情報収集と連絡調整	5
1 - 2 . 作業の決定	5
1 - 3 . ボランティア募集	5
1 - 4 . 作業環境の整備	5
1 - 5 . 作業参加予定者への連絡	5
(資料1)災害ボランティアのみなさまへ 安全衛生面のご注意	6
2 . 作業当日にやること	7
2 - 1 . 作業前におこなうこと	7
2 - 1 - 1 . (ボランティア) 受付	
2 - 1 - 2 . 健康チェック	
2 - 1 - 3 . 作業振り分け	
2 - 1 - 4 . オリエンテーション	
2 - 1 - 4 . a) 作業内容説明	
2 - 1 - 4 . b) 安全衛生面での注意	
2 - 1 - 5 . 装具 (保護具) の確認、貸付・供与	
2 - 2 . 作業中にやること	7
2 - 2 - 1 . 現場への移動	
2 - 2 - 2 . 休憩	
2 - 2 - 3 . 食事	
2 - 2 - 4 . トイレ	
2 - 2 - 5 . 水分および塩分補給	
2 - 2 - 6 . 点呼	
2 - 2 - 7 . 本部への定時報告	
2 - 2 - 8 . 現場巡回	
2 - 3 . 傷病が発生した時の対処	8
2 - 3 - 1 . 失命の危険があるとき	
2 - 3 - 2 . 失命の危険がないとき	
(資料2)ボランティアの安全衛生管理のための現場巡回チェックリスト	9
2 - 4 . 作業後にやること	10
2 - 4 - 1 . 本部への報告	
2 - 4 - 2 . 問題点の整理	
2 - 4 - 3 . 関係者との協議	

1．前日までにやること

1 - 1．情報収集と連絡調整

作業の決定に必要な情報を収集する。復旧作業が必要な箇所を拾い出し、カードまたは台帳を作成し、地図に記入する。必要ならば、現地視察を行い、安全衛生面をチェックする。

1 - 1 - 1．場所

安全な作業が行える場所であるかチェックする。また、現場の移動に問題がないかをチェックする。

1 - 1 - 2．気象条件

翌日の天候や気温等をチェックする。

1 - 1 - 3．被害状況

建物や施設・設備の被害状況を調べる。安全な作業ができるかどうかチェックする。

1 - 1 - 4．その他

その他、必要な事項をチェックする。

1 - 2．連絡調整

地元市町村（消防を含む）や保健所、医療機関、医師会と連絡調整する。内容は、緊急時の対応、作業者の健康管理に対する協力要請（休憩場所・トイレの確保、保険、広報等）である。

1 - 3．作業の決定

必要性や安全衛生面の配慮等を考え合わせて作業場所と内容を決定する。決して無理な作業を行ってはならない。

1 - 4．作業環境の整備

ボランティアセンター本部や休憩場所は原則禁煙とし、喫煙場所を設定する。

1 - 5．作業参加予定者への連絡

ボランティアの募集や、注意事項、持参品等を広報または連絡する。

(資料1)

災害ボランティアのみなさまへ 安全衛生面のご注意

ボランティア現地本部

氏名		活動場所		年 月 日 ~ 年 月 日
----	--	------	--	---------------

このたびは、遠路はるばる被災地までお越しいただき、復旧作業に従事していただきまして、ありがとうございます。
ご存知のように、被災地は非常に環境が悪く、人間の健康に悪影響がございます。例えば、ケガをすることで、破傷風にかかるリスクが高くなっています。また温度や湿度の高い場所での作業やビニールなど通気性の悪い服などで作業されますと、場合によっては、熱中症にも注意が必要ですし、食中毒の予防も真剣に考えなければなりません。

これに加えて、ボランティアさん自身の体調も気を配る必要があるでしょう。たとえば、心臓病や高血圧、糖尿病があれば、自ずと作業内容も決まってくるのではないのでしょうか。

そこでボランティア現地本部といたしましては、ボランティアさんがケガや病気をしないように、ささやかながら、ご援助申し上げたいと存じます。

1. 破傷風対策・・・ケガをしないよう、保護具（長袖の服、手袋、長靴など）を必要に応じて着用してください。深い刺し傷ができると、そこから破傷風菌が体内に入ります。潜伏期間は3～10日とされています。ボランティア作業後、身体の不調を感じて、医療機関を受診される時は、この紙を医師に提示するか、水害の復旧作業を行ったことを伝えてください。

2. 熱中症対策・・・高温多湿の環境下で重労働を行うと、熱中症になりやすくなります。また、寒い時期でもビニールなど通気性の悪い衣服を着て重労働を行うと、多量の汗をかきます。スポーツドリンクを飲むなど、水分および塩分の補給と、十分な休憩を取ってください。睡眠不足やアルコールの大量摂取は、熱中症のリスクを高めますので、ご注意ください。

3. 循環器病（心臓病や脳卒中、高血圧など）対策・・・寒冷時に多発します。過去に心臓病や脳卒中に罹っている人は、重労働を伴うボランティア作業をお断りすることがあります。また、糖尿病やコレステロールの高い人、高血圧の人は、心臓病や脳卒中になるリスクが高いのでご注意ください。

4. 健康チェックカードへの記入・・・被災地以外の方がボランティアをされる場合は、当然のことながら、被災地にかかりつけの医師がいませんので、基本的な健康状態の把握ができません。健康上のリスクのある方が、ボランティア作業中に突然倒れるという事態になったら、ボランティア本人はもとより、ご家族の方も困りますし、被災地にも迷惑がかかります。申し訳ありませんが、健康チェックカードへのご記入をお願いします。

き り と り せ ん

健康チェックカード

ふりがな		男	〒	-
氏名		女	住所	
		歳		
電話		緊急時連絡先		
1. 10年以内に破傷風の予防接種(3種混合や2種混合など)を受けましたか? (はい・いいえ)				
2. 高血圧の薬を飲んでいますか? (はい・いいえ)			3. ふだんの血圧を書いてください。 /	
4. 心臓病はありますか?		(1) ない (2) 以前、治療したことがある (3) 現在、治療中である (4) 治療をすすめられたが、放置している		
5. 糖尿病はありますか?		(1) ない (2) 以前、治療したことがある (3) 現在、治療中である (4) 治療をすすめられたが、放置している		
6. その他の病気はありますか? (ある[]・ない)				
7. 治っていない怪我はありますか? (ある・ない)			8. 血液型 A・B・AB・O Rh(+・-)	

2. 作業当日にやること

2-1. 作業前におこなうこと

2-1-1. (ボランティア) 受付

受付時に、健康チェックカードに記入してもらう。項目は、氏名、性別、年齢、平常時の血圧、前日の睡眠時間、前日の飲酒、治療中の病気の有無（心臓病、脳卒中、糖尿病は必ず聞く）、過去になった病気（心臓病、脳卒中、熱中症は必ず聞く）などである。

2-1-2. 健康チェック

健康チェックカードおよび本人からの聞き取りに基づき、健康チェックを行う。高齢、高血圧、短い睡眠時間、前日の大量飲酒、治療中の病気、過去になった病気等を参考に参考にする。医療スタッフがいる場合には、必要に応じて相談する。

2-1-3. 作業振り分け

作業の必要性和安全衛生面の配慮、作業者の健康状態を考え合わせて作業を振り分ける。

2-1-4. オリエンテーション

2-1-4. a) 作業内容説明

どこで、どのような作業を何時から何時まで行うかを説明する。

2-1-4. b) 安全衛生面での注意

暑い時期なので、熱中症（日射病など）に注意する。怪我をしないように安全な作業をする。単独行動は危険なのでしない。お互いの健康状態に常に気を配る。無理な姿勢をとったり、重量物を扱うと腰痛が発生するので注意を喚起する。

2-1-5. 装具（保護具）の確認、貸付・供与

必要に応じて、帽子・ヘルメット・手袋・安全靴・地下足袋・マスク・ゴーグル等を持っているか確認し、持っていない場合は、貸し付けるか供与する。

2-2. 作業中にやること

2-2-1. 現場への移動

交通事故に注意する。長時間歩く場合は、熱中症（日射病など）に注意する。

2-2-2. 休憩

1時間に1回程度休憩する。休憩場所は直射日光の当たらない涼しく安全な場所が望ましい。暑い日は身体がだるくなり、水を飲む気力もなくなるので、

休憩時間には水分と塩分を補給する。全員が水分と塩分を補給したかどうかを確認する。

2 - 2 - 3 . 食事

食事時間を確保し、食前には手を石鹸で洗う。水と石鹸がない場合は、ウェットティッシュを使う。食後の休憩をとる。

2 - 2 - 4 . トイレ

トイレ、特に女子トイレの確保が重要である。これがないと、作業参加者によっては、トイレに行きたくないという気持ちが強くなり、水分摂取を我慢してしまい、脱水による熱中症を引き起こすリスクが高まるからである。

2 - 2 - 5 . 水分および塩分補給

汗で水分と塩分が失われるので、補給が必要である。寒冷時の作業においても、ビニールなど通気性の悪い衣服を着用して重労働を行うと汗をかく。スポーツドリンクが望ましいが、なければ水を飲んだとき食塩（塩辛い食品）を食べる。水分だけ取ると熱中症になるリスクが高まる。

2 - 2 - 6 . 点呼

現場監督者（リーダー）は、全員がそろっているかどうか、常に気を配る。休憩時や昼食時には必ず点呼する。都合により途中で帰った者がいる場合は、その旨を参加者全員に知らせる。知らせておかないと無用の心配を生むからである。

2 - 2 - 7 . 本部への定時報告

休憩時等を利用して、本部へ定時報告する。本部は、定時報告がない場合は、本部から現場に連絡する。

2 - 2 - 8 . 現場巡回

本部スタッフは、現場を巡回し、問題点がないかどうかチェックする。

2 - 3 . 傷病が発生した時の対処

2 - 3 - 1 . 失命の危険があるとき

大量の出血や意識を失ったり、胸や頭に激しい痛みがある場合などは、失命の危険があるので、救急車などの手配をするとともに、人工呼吸・心マッサージなどの応急手当を行う。

2 - 3 - 2 . 失命の危険がないとき

失命の危険のあるなしは、本来医師が判断すべきものであるが、ちょっとしたケガや風邪引きなど常識的に生命の危険がないと思われる場合は、程度に応じて、その場で手当をするか病院に行けばよい。しかしながら、チームリーダーには報告すべきである。チームリーダーは、必要に応じて救護所の医師等に報告する。深い刺し傷などは破傷風にかかる恐れがあるので十分に注意する。

(資料2)

ボランティアの安全衛生管理のための現場巡回チェックリスト

巡回日時： 年 月 日 () 午前・午後 時 分 ~ 午前・午後 時 分

巡回者氏名：

現場名 (または住所)：

現場責任者氏名：

チェックリスト回答者氏名：

現場作業人数：男性 名、女性 名、合計 名

作業開始時間：午前・午後 時 分

作業終了予定時間：午前・午後 時 分

作業終了時間：午前・午後 時 分

救急患者搬送先医療機関

医療機関名 () ・知らない

住所 () ・知らない

電話 () ・知らない

119番通報 (消防・救急) 110番通報 (警察)

携帯電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

公衆電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

一般電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

ボランティア本部 (tel. - -) との連絡手段

携帯電話 (可能・不可能) 公衆電話 (可能・不可能) 一般電話 (可能・不可能)

無線 (可能・不可能) 車両 (可能・不可能) その他 ()

危険物および危険場所 あり () ・なし

(ありの場合) 危険物や危険場所の対処 した () ・しない

休憩場所 あり (場所：) ・なし

昼食場所 あり (場所：) ・なし

トイレ あり (場所：) ・なし

飲料水 十分・不十分・なし

(不十分・なしの場合) 飲料水の確保 した () ・しない

安全衛生管理の説明 行った・行わない

2 - 4 . 作業後にやること

2 - 4 - 1 . 本部への報告

安全衛生に関して現場で起こったことを一覧表にまとめて報告する。

2 - 4 - 2 . 問題点の整理

本部では、各現場で生じた問題点を整理し、対応策を練る。

2 - 4 - 3 . 関係者との協議

問題点の解決のため、必要に応じて関係者と協議する。

【後記ならびに謝辞】

防災和座、公衆衛生ネットワーク、産業医学メーリングリスト、災害情報メーリングリスト、オイルメーリングリストおよびTFCなど、各種メーリングリストでの議論を参考にして作りました。改めて御礼申し上げます。

また、早朝に起きてゴソゴソしていた私を暖かく見守ってくれた妻にも感謝をささげます。